

期末評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 次年度への方策等
<p>【国語】</p> <p>○漢字の反復練習や小テストの実施、デジタルドリルの活用等で漢字の習得に熱心に取り組む生徒が増えた。</p> <p>○話し合い活動や作文・感想文等で文章をまとめる機会を多く取り入れ、思考・判断・表現力の向上につながった。</p> <p>▽習得した漢字を正確に書いたり、文章の中で進んで使用したりすることが苦手な生徒が少なくない。</p>	<p>●思考・判断・表現力の向上のために繰り返し、話し合い活動や文章を作成する機会を多く設ける。</p> <p>●目標数値を明らかにして、家庭学習を中心にノートやデジタルドリルで漢字練習に取り組ませる。</p> <p>▼創作活動の中で、進んで漢字を使用するように、辞書やタブレットを活用して取り組むように具体的に指示をする。</p>
<p>【数学】</p> <p>○毎授業ごとに課題に取り組ませることや学びポケットの活用等で、知識・技能の向上につながった。</p> <p>○振り返りシートを活用することで、その日の授業内容の振り返りを行い、テストにてレポート形式でまとめることで、学習内容の定着につながった。</p> <p>▽習得したことを他の問題に応用して考えることが苦手な生徒が少なくない。</p>	<p>●継続して単元ごとの見通しをもちながら、課題の取り組みに力をいれていく。</p> <p>●授業内でのめあてを明確に示し授業内での達成度を確認できるように工夫をしていく。</p> <p>▼標準コースは基礎学力の定着のための演習を多く取り入れ、一般コースは応用問題にも触れながら、幅広い演習問題を扱っていく。</p>
<p>【理科】</p> <p>○レポート等の課題に取り組ませることで、自らの言葉で考察を書こうと努力をする生徒が増えた。</p> <p>○基本事項の理解を深めるために、単元テストや小テストを複数回行い、自己の課題を理解させることによって、学習方法を工夫したり、課題の完成度を高められたりする生徒増えた。</p> <p>▽学校では、デジタルドリル等の課題には熱心に取り組むものの、基礎力が培われるまで、自主的な反復学習ができない一部の生徒がいる。</p>	<p>●思考力を高めるために、自らの考えを表現する場面を、多く設定する。</p> <p>●基礎学力定着のために、授業内で繰り返しさまざまな形態の課題に取り組ませる。</p> <p>▼家庭でもデジタルドリルを活用した学習や授業の復習に取り組むように、具体的に指示をする。</p>
<p>【社会】</p> <p>○話し合い活動やワークシートに文章をまとめさせる活動などを通して、思考・判断・表現力の向上につながった。</p> <p>○朝学習の時間にAI対応ドリルに取り組ませることで、生徒個々の理解に応じた学習を反復して行うことにつながった。</p> <p>▽社会的な事象に対する興味や関心が低い生徒が多い。</p>	<p>●思考・判断・表現力の向上のために繰り返し、話し合い活動や記述するような機会を設ける。</p> <p>●朝学習の時間だけでなく、自宅等での自習でも活用するよう具体的に指示をする。</p> <p>▼授業で時事的な内容に触れたり、映像資料を活用したりして生徒の興味・関心を高める。</p>

【英語】

○教科書本文の音読指導を個々に行う時間を多く設けることによって、生徒一人一人の基礎基本の定着につなげることができた。

○英検や ESAT-J Y1・Y2 などの外部実施のテストに向けた学習も課題に組み込み、知識・技能の向上に役立てることができた。

▽学年が上がるにつれて、知識の積み重ねがなく理解できないことによる、学習意欲の低下が見られる。

▽音読や教科書内容理解などの基礎基本に多くの時間を費やした結果、技能を統合的に向上させる機会が減ってしまった。

●ペアでの活動のみならず、教員が一人一人きめ細やかに音読指導をすることをとおして、基礎基本の定着を促す。

●試験対策兼ねながら、学習に対する動機づけになるよう、外部試験の問題にも取り組んでいく。

▼語彙や文法をスパイラルに学べるようウォームアップの時間を活用して復習の時間を確保する。

▼インタビューやスピーチ・プレゼンテーションなど、複数のパフォーマンステストを年間通して行い、応用力の向上を図る。